

平成 21 年度 第 1 回鎌倉市次世代育成支援対策協議会

日時：平成 21 年 6 月 4 日（木）

午前 10 時～12 時

会場：市役所 全員協議会室

次 第

開会

1. あいさつ
2. 鎌倉市次世代育成きらきらプランについて
3. ニーズ調査の結果報告について
4. 鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画策定について
5. その他

出席者（敬称略）

委員長 松原 康雄（明治学院大学 教授）

委員 石井 浩彦（鎌倉商工会議所）

兵藤 忠洋（鎌倉青年会議所）

小川 研一（鎌倉市社会福祉協議会）

渡部 俊子（鎌倉保健福祉事務所）

尾島 珠世（鎌倉市民生委員児童委員協議会）

平野 佳世子（かまくら子育て支援グループ懇談会）

宮内 淑江（鎌倉市手をつなぐ育成会）

富田 英雄（鎌倉市保育会）

鈴木 百恵（鎌倉市保育園保護者連絡会）

田中 恵美子（鎌倉私立幼稚園父母の会連合会）

兵藤 嘉子（鎌倉市立小学校長会）

赤瀬川 由乃（鎌倉市 PTA 連絡協議会）

小坂 泰子（鎌倉市青少年指導員連絡協議会）

鈴木 綾子（市民公募委員）

欠席者（敬称略）

新保幸男委員、石井秀卓委員、岡田智佳子委員

次第 1 . あいさつ

委員長・・・ 平成21年度第 1 回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を始めます。

皆様、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

今日午前中、子どもたちの育成と子育て支援について色々のご意見を伺いたいと思います。全体の進行は次第に沿って進めて参りたいと思います。それでは次第の 1 について事務局からお願いいたします。

事務局・・・ 本日は平成21年度の初めての協議会という事で、4名の新たな委員にお越しいただいているので、ご紹介させていただきたいと思います。

<新委員自己紹介>

ありがとうございました。

本日は新保副委員長、石井秀卓委員、岡田委員から欠席の御連絡をあらかじめいただいております。宮内委員につきましては、遅れる旨の御連絡が入っております。

この4月に事務局職員につきましても人事異動がございました。これまでこども部と言う名称でございましたが、こどもみらい部という名称に変更させていただいている所でございます。

<こどもみらい部長挨拶>

次第2. 鎌倉市次世代育成きらきらプランについて

委員長・・・ 委員を長くしていらっしゃる方は充分ご存知だと思いますが、新たな委員もいらっしゃるの、もう一度皆様と確認をしたいと思います。それでは次第2の「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局・・・ 資料の確認

「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」について簡単に説明

鎌倉市次世代育成きらきらプランの概要

きらきらプラン推進体制と役割

委員長・・・ 私の方から補足で「きらきらプラン」の6ページを見ていただくと、トライアングルができていて、右の下のところには地域という事で色々な方たちが挙がっています。それで実際の「事業編」を見ていただければ分かると思うのですが、実施主体は必ずしも行政だけではなく、「地域の色々な団体はこんな事をやります」という事も盛り込まれています。したがって鎌倉市が行政として何をやるかという事に加えて、地域社会が次世代育成に対して何ができるのか、何をやっていこうか、という事を考えてきてこの次世代育成の前期計画ができ上がっていますので、そういった視点からも後程ご意見を頂ければというふうに思います。

今の事務局の説明、私の補足等を含めて何かご質問があれば頂きたいと思いますが、新しい委員もいらっしゃるの、特に子育て当事者ということで伺いますが、この資料2にある「きらきら白書」というのが毎年出ているのですけれども、これは皆さんご存じでしょうか。

鈴木(百)委員・・・ 表紙だけは見た事があるのですが、中身を具体的には見ていないです。

委員長・・・ 何か、こうやったら皆読むのではないかという知恵はないでしょうか。

鈴木(百)委員・・・ ちょっと漫画を入れてみるとか。

委員長・・・・・・ なるほど。

田中委員・・・・・・ 娘が小さい時は、福祉センターなどに行くと、そこに置いてあったりして目にする事があったのですけれども、子どもが大きくなってあまり施設を活用しなくなったり、外で遊ばせたり、幼稚園に入るようになって、あまり市役所のような所にも来なくなると目にする機会が無ので、もし幼稚園等にも一冊あって目にする機会があれば読むようになると思うのですけれども。

赤瀬川委員・・・ 役員をいたしますと大体目を通す機会があると思うのですけれども、役員や委員をされない方には情報が行かない。一冊頂いても、それを置いたところで、それを見て、果たして読んでいただけるのか、と思うのですけれども。

鈴木(綾)委員・・・ 三人娘がいます、子どもが小学校に上がると見る機会があってもほとんど見なくなりました。赤ちゃん世代の方は市役所に行かれたり支援センター等に行かれたりして目にしますけど、以前思ったのですけれど結構新しく切り替わったりしますよね。それが分からない時があって、ずっと過去の物を見続けてしまう事があるので、鎌倉市全般に、お店等でも鎌倉市内の目に付く所に置いていただければ、興味がある方はいるので、置いていただければと思います。

委員長・・・・・・ ありがとうございます。仰る様に、インターネットだと新しい情報のところに「new」というのが付きますね。切り替わった先に「年度版が変わりました」くらいのタックが付くとちょっと手に取っていただけるかもしれないです。

字だけではなくて漫画もというお話も頂けました。市の方でご検討いただければと思います。

ほかに推進体制、或いは中身に関わってご質問ご意見ございますか。

次第3 . ニーズ調査の結果報告について

委員長・・・・・・ それではニーズ調査の結果が出ております。これは「後期計画を作る時にニーズの調査をなささい」というのが国の方針で出ておりまして、それで鎌倉市で調査をされました。この協議会でも確か一度取り上げていただいて、オリジナルの質問項目をどうするかを議論していただいた経緯がございます。非常に分厚い資料になっておりますが、要約版というか分析バージョンの方も作っていただいているようですので。次第の3になります、鎌倉次世代育成支援に関するニーズ調査の結果報告について事務局の方からご説明をいただきます。

事務局・・・・・・ 資料3、3-2、3-3 ニーズ調査の結果について報告

委員長・・・ 相当高い回収数が得られました。その中で子育ての当事者、或いはちょうど子育てをする年代の方のご意見を聞く事ができました。鎌倉の特徴でしょうか、親族知人のネットワークが相当強いということが出てきているのかと思いますが、全体を見て何かご質問ご意見があればお出しいただければと思います。

平野委員・・・ 今回の概要版を拝見して一番印象的だったのは、個人個人はお子さんを育てる事に凄く満足感を持っていらっしゃるのに、社会がそういう事を評価しているかという事に関しては、半数以上がそう思っていないという結果が出ているという事なのです。

私自身もそういう印象を持っているのですが、その印象というのはどこから来ているのかというふうに思うと、はっきりした言葉でなかなか表現する事ができないのですが、その辺もしお聞かせ願えれば良いと思いました。

一つは、このニーズ調査は私の家にも来たものですから、やっていく中で最初に、「預けましょう」、「どういうふうに預けますか」、「子どもさんどうしていますか」と預けるサービスの事について長く紙面が割かれて、国の計画を見ると、北欧並みの80%ぐらいの女性の就労を目指すみたいな、そういう事が書かれている訳です。鎌倉の方を拝見すると、案外まだ専業主婦でやっている方も多いと思うので、何か「働きなさい」と強要される様なニーズ調査の出方というのが凄く気になりました。

またその一方で、本当に働く事が必要な母子家庭の方に対する支援というのが全然充実していないという、アンバランスさというものが凄く気になっています。例えば、来年度またニーズ調査を行われるとしたら、「鎌倉市仕様として、どんな子育てをしたいのか」から話を進める事ができないのかと思います。ただ、働きたいというだけではなくもっと違うニーズがあるという側面も考えていただけたらと思いました。

委員長・・・ このニーズ調査自体は国が指定してきた質問項目があるので、どうしても市の方で工夫できなかったところもありますので、仰る様な印象を抱かれたかと思えます。

後輩で今妊娠されているのですが、鞆に例のマタニティマークを付けて歩いているので、「これ効く?」と言ったら「全然」と。シルバーシートの前に立っても誰も譲ってくれない。多分そういうところで社会的な支援が無いというふうに感じるのかと思うのですが、いかがですか。あまり子育ては社会的には評価してくれてないのではないかと半数ぐらい出ているのですが、こんなシーンがあるとか、こんな事で多分感じるのではないかとこのことがありますか。

先ほどから子どもの元気な声が聞こえてきて、私は良いBGMだと思っていますけれど、多分こういうのが「うるさい」と言う方もいらっしゃるのでしょうか。何か思い当たる事がありますか。

抽象的な感覚なのか、この概要版で見ていただきますと、19ページの就学以前

のところで「子育てをされていて特に困ること、困ったこと」を見ると、「安心して子どもを遊ばせられる場所がない」とか、「子どもが安全に通れる道路がない」とか、「暗い通りが多く、犯罪被害にあわないか心配」だとか、「ベビーカーでの移動に不自由なこと」だといったところは社会が評価してくれないというところに繋がるのかと、或いは「いざというときに子どもを預かってくれる人がいない」とか、「公共施設や公共機関に子ども連れへの理解がない」とか、この辺りが社会的によく受けてないというところに繋がるのかと思いますが、ちょうどその下に「父親が子育てに関わりづらい理由」とかありますが。

兵藤(忠)委員・ このご時世という事もあるのでしょうけれど、家庭より仕事にウェイトを占めてしまう父親が相当多いのではないかと思うのです。私の所属している青年会議所という団体でも、家庭を顧みてないように見受けられるようなメンバーが非常に多いような気がするのです。そういうところから変えていかなければいけないのかなと感じております。

委員長・ ワーク・ライフ・バランスという言葉が最近使われますけれど、やはり企業的には難しいところなのではないでしょうか。

兵藤(忠)委員・ 日本人の文化なのではないでしょうか。仕事をとにかくガムシャラにやる事によって評価されるような、そういった風潮があると思いますので、そういった考えそのものを変えていかなければ難しいのかと。

石井委員・ 難しいところだと思うのですが、昔から男は仕事で女性が子育てと、家庭に入ってという様な風潮があったので、それが無くなって来たとはいえ、まだまだ続いているというように思えます。

委員長・ 鈴木(百)委員、保育園代表でご自身も働いてらっしゃると思いますが、女性のワーク・ライフ・バランスというのはどうですか。

鈴木(百)委員・ 出産前は飯田橋で働いていましたが、実際子どもを産んでみて「これは、無理だ」と気付かしまして、保育園に入ってから転職をして、大船に勤めるようになりました。

私は父と母が近いので何とか成り立っているのですけれども、核家族でやっている方というのは、とても女性が強くないとやっていけないと思います。やはり女性に対する風当たりというのはとても強いので、自分が子どもの風邪とかで休んでも、周りの方たちは理解してくれないので、その辺で周りの家族とかがいないと厳しいと思います。

委員長・ このニーズ調査で「幼稚園で預かり保育の時間を長くして欲しい」というのが

結構出てきているのですが、その辺どのような事情で「預かり時間長く」という回答をしているのか。例えばパート就労しているのかとも思えますし、或いはもう少し自分たちの時間が欲しいと思われているのかもしれないですし、この様な事というのがおありになりますか。

田中委員・・・ 預かり保育に関しましては、幼稚園に行かせている親は、私が入っている園に関しては、あまり働いてない方が多いので、自分の病院ですとか、そういった用事で預けているというふうに見受けられるので、長くして欲しいという様な回答はどの様な方がしているのか分かりませんが、子どもを帰りに引き取ってから、まだ遊び足りないのに遊ばせたいけれども、遊ばせる場所が無いなど。後は、近所に同じくらいの子がいないので遊ばせたい、という意向で幼稚園とかそういう所を使って長い時間子どもをもう少し遊ばせたい、という事でだと思います。

委員長・・・・ 調査結果で言うと本編の23ページに、「幼稚園や保育所に望むこと」という事で「社会性の育成」というのがトップに来ていて、今仰る様にそういうかたちで、少し長い時間集団の中に置いて、つまり今近所で子どもたちのグループがなかなかできにくいという事なのでしょうか。だからそういう集団のある幼稚園に期待があるのかもしれないです。

赤瀬川委員、ニーズ調査では余り子どもの家というのが大きな数字では出てこないのですが、田中委員が仰った様に専業主婦と言うか、働いていらっしゃる方がそれなりの数いらっしゃるの、そういうかたちで出てくるのですか。

赤瀬川委員・・・ 私の所もそういう場所に行かないのですけれども。というのも、低学年の時は結構行ったりするのですけれども、そのうち飽きてしまう事もありまして。後は小学生でも習い事をされている方が多いので、その習い事までの時間少し行くとかいう様なかたちで低学年のうちは入るのだけれども、段々高学年になってくるとお友たちも少なくなってくるし、飽きてしまうので、自分でどこか別の所に行った方がいい、という様な話を伺った事があります。

委員長・・・・ そうすると社会的な問題で。段々高学年になると、塾とか習い事で子どもが忙しくなってしまうという事がいいのかどうかです。ただ、親としては皆が行くから塾にも通わせたい、そういう思いもあるのかと思いますが。

今申し込み数がここは多くて溢れそうだという子どもの家がありますか。学童保育の部分で。

青少年課長・・・ 今、子どもの家は全16施設ございます。今入所している子どもは885人いますけれども、一応今全員を入所させています。週6日間利用される方は少ないですから、利用状況を見て、希望者には全員入所してもらっているということです。

委員長・・・ 適正な人の数は確保できているという事でしょうか。

青少年課長・・・ 面積的に言うと、1人当たり1.65㎡。それが望ましい面積になっています。その数字で割ってみますと、今の入所者数と部屋の面積からすると、入所者数が多いという状況の所はございます。

委員長・・・ 前に市の児童福祉審議会で取り上げた時に、障害を持ったお子さんがいるという事について、色々課題があるという事が出てきて、障害を持ったお子さんの放課後対策という様な事も審議会として取り上げた事もございますが何かございませうか。他の関連の事でも結構です。

宮内委員・・・ あの時以来、鎌倉市は2箇所の障害児の放課後余暇支援事業をやっていますので、ほぼ希望は達成できていると思います。深沢の方は結構人数が多い時はお断りするような事があるという事ですけれども、大船の方の「のんびりスペース」の方は、スペースは小さいが職員を増やして断らない事を前提に頑張っているので、多い日は11人とか12人とか年々利用者は増えております。その理由として、やはりお母さんがパートで働いているという方が年々増えてきているので、子どもの家の代わりに「のんびりスペース」を使われているのではないかと思います。ただ、利用料が子どもの家は月何千円ですが、うちの場合毎日使ったら万の単位を超えてしまうので、その辺が厳しいかとは思いますが。一番使っていらっしゃる方は月1万円以上の利用料を払ってらっしゃいますので、その辺では子どもの家を使ってらっしゃる方と、障害を持っている方のお母さんとの差はあるかと思えます。あと、母子家庭さんもいらっしゃるので、そういう方の為に何か支援があったらいいと思っています。

とにかく利用料がかかってしまうという事が、市の方では補助金でやっていて、後利用料という二本立ての予算でやっていきますので、ほとんど人件費で消えてしまいますので、その辺で人をたくさん受け入れれば受け入れる程、人件費が上がっていくという事なので、運営的には結構厳しい事がありますけれども、お断りしないでお受けしているような状況です。

委員長・・・ 少し話題が変わります。この調査は2月、3月にやりました。そうすると相当不況が目目の当たりに出てきた時期です。一般的に最近保育所の待機児童が増えていて、それは家計補助の為に新たに働き始める人が増えたからだという、その部分のところは2月、3月ですから、ある程度カバーしたニーズが出てきているかと考えていいと思うのですが。保育所の待機児童の動きはいかがですか。

保育課長・・・ 今年度4月1日の待機児数は44名となっております。これは昨年より若干増えておりまして、昨年度は34名10名増加となっております。

委員長・・・ 何かこんな理由ではないかというのが想定されていますか。

保育課長・・・ 委員長が仰られた様な経済的な理由というのかもしれませんが、私共窓口で実感しているところとは育休制度の普及、0歳、1歳の育休明けのお子さんを預けたいという親御さんが多くなっているのかと感じております。

委員長・・・ 富田委員、保育関係でなにかありますか。

富田委員・・・ 育休制度で育休が明けて保育園に入所を希望する人の一番多い年齢層、子ども2歳が一番入りにくい。ですから育休を規定だけ取らないで繰り上げて入所するとか、育休を取らないで祖父母に手伝ってもらって産休明けから戻るとか、そういうふうな傾向が多い。だから2歳児で育休が明けますから「入れますか」というのが毎日数件ありますけれども、ほとんど入れない。

先程からの話で2つ気になっている事があるのですが、実は鎌倉市というのは大変居住環境がいい、子育ての環境がいいというので子連れで入ってくる保護者がいる。そして数名の子どもを産みたい。ところが実際には保育園には待機児が多くて入れない、その為に実際に出産する人数を諦めて制限すると。ですから世の中子どもがどんどん減っていくという事について、親が子どもを産みたくないのではなくて、産める環境が整わない。だから鎌倉市にもっと保育所があれば、そうすれば3人産みたい親は大勢いる。

それからもう1件は、鎌倉に住んでいる祖父母は生活が苦しいかは別として、比較的安定している。その為に離婚した母子家庭、或いは父子家庭の人が鎌倉に移ってくる。ますますそれが待機児を膨らませる原因になる。ベビーシッターを使わないという理由も、祖父母が割としっかりしているので、そこで面倒を見ようという事になっています。

それから先程の話で父親がなかなか協力できないという話がありますが、実際今の保育園は子どもの送り迎えとか行事には半数は父親が協力しています。特に朝出勤前に父親が子どもを連れて来て、そのまま会社に行くというケースが非常に増えていますから、協力体制はかなり進んでいると思います。

委員長・・・ ファミリーサポートの利用率がそんなに高くないのも、親族が預かれてしまうのかと想像します。他にこのニーズ調査を見ていただいて、ご意見ご質問いかがか。よろしいですか。

それではニーズ調査に基づいて今年度中にこの後期計画を立てて、次年度から5年間の後期が始まりますので、その事についての議論に進んでいきたいと思えます。

次第4．鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画策定について

委員長・・・ では次第の4になります。「鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画策定」に

ついて事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局・・・ 鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画策定について説明
今後のスケジュールについて説明

委員長・・・ 全体のプロセスと何をやっていくのかを説明をしていただきましたが、なかなか行政的なプロセスなのでピンとこない部分もあるかと思います。第2回の時には今事務局の説明でありました様に前期計画を立てる時に想定されていなかった事、多分子どもの安全安心は5年前には余り出て来なかったかと思うのですが、市の方としてもこの様な事を追加したい、或いは定量的な部分で、このくらいのかたちで量を充実したいという事の検討は出てきて議案が出るかと思います。最後に事務局の説明で、その部分について委託をしていくという事ですので、今日この時点で色々な事業内容、このきらきらプランの「事業編」のところで出ているのですが、勿論重複して下さっても結構なので、最近こんな事を考えていて、子ども、或いは子育ての応援という事で、女性や地域社会がこの様な事を考えたらいいいという事があればご自由に発言していただきたいのですが、いかがでしょうか。

宮内委員・・・ 障害のある子どもたちに対する事なのですけれど、5年前と今と変わってきているというのは、発達障害系の子どもたちがとても増えてきているという事なのです。それが今一番問題になっているのは中学校。小学校は普通級で何とか過ごせていた子どもたちが、中学校になると勉強に着いていけないとかそういう事でとても増えていて、教育委員会の方のお話では今3校、御成と大船と玉縄、3つの中学校にある学級では今の小学校の人数からすると対応しきれない。平成24年に、新しく特別支援学級を中学にというお話を伺いましたけれど、24年ではちょっと遅いのではないかと、もう1年ぐらい前倒ししないと。今4年生のお子さんたちが凄く多いのです。やはり年代別に出こみ引込みがあり、多い年代とそうでもないという年代とがありまして、それはどこで来るのか私もちょっと分かりませんが、そういった子どもたちの数をよく把握していただいて。

発達障害系のお子さんが増えていくという事は重度の知的障害者とかという子どもたちの方が、隅へ追いやられてしまうのではないかというふうな、私たちの会のお母さんたちはとても心配しています。ある程度自分の事を主張できる発達障害系のお子さんですから、先生に色々な事を言えますけれど、重度の知的障害の子は言葉も無い子どもたちが多いため、体調を崩したりとか、精神的に不安定になったりとか色々な症状が出てきてしまって、お母さんもとても困ると思うのです。それで言葉が無いですし、その子どもがどういう状態でこういう状態になっているか、という事もお母さんも分からなかったりして混乱してしまう事もありますので、その辺を配慮していただいて。特別支援学級というのが、発達障害系のお子さんを入れるというのを文科省が決めました、根柢にはそういっ

た重度の方たちの行き場所だったという事があるので、その辺を大事にしてい
だいて中学校の方とか考えていただきたい。

あと色々こういうふうにくらきプランとかありますけれど、今度は社会の出
口が発達障害系の方たちには難しい。福祉の方の世界に入ろうと思っても手帳は
無いし、年金の問題とかIQの判定で障害者手帳が貰えないとかという問題もあ
って、なかなかその辺難しいというのがありますし、引きこもりの問題もこの子
たちの特徴だと思いますので、そういったところを配慮していただきながら、中学
が一番大変だと思うのです。小学校から中学校に行く時点でというのが大変だと
思いますし、また中学から高校という問題もあるので、健常の子がスムーズにい
くところでも、そこで一回つかえてしまうと、ずっと後の生涯まで引きずって
しまうというのが障害のある方たちの問題なので、その辺を少し考えながら新し
い後期の計画の時に反映させていただければと思います。よろしく願います。

委員長・・・ では色々発言をしていただいて、事務局の方にメモしていただいて、庁内会議
の時に少し反映していただければと思います。どうぞ自由に何でも。

尾島委員・・・ 主任児童委員と言う民生委員の仕事をしております関係上、児童相談所等々子
どもの虐待とかそういった関係の事が、じわじわではありますが増えてきており
ます。それらの問題を少し深く見てみると、20年くらい前でしょうか、多分今
のお父さんお母さんが発達障害のあるような傾向の方がそのまま親になられて、子
どもを産み育てている状況が今に至っている。で、どう育てていいかわからない。
その親御さんも結局鬱という、医療的には鬱と言っても範囲は広くありますけれ
ども、その中のどこかに病名を付けられてお薬を頂くなり何なりしながらの子育
てという事で、その辺まだきちんとした説明がなされておりませんので何とも言
えないのですけれども、そういったこぼれた状態での長年の結果が今ここに出
て来ているような気がしないでもないものですから。この問題で取りこぼしの無い
ような、きめ細かい対処というのもこれからは考えていただきたい。最近、本当
に色々なお子さんと親御さんを見ていると切に思う事です。

委員長・・・ ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

鈴木(綾)委員・・・ 発達障害という話が出ていまして、私の周りにもそういうお子さんがいらっし
やいまして、最近の話ですけれど、小学校に上がられて普通学級に入っているの
ですけれども、先生は児童さんにもものを言って「手紙を渡してね」とか言ってそ
のまま終わってしまっているのが、対象にあたっているお子さんが、プリントを
渡すものとか、何々をするのだという事が分からないままお家に持って帰って
しまって、お母さんが迷ってしまうという事があって、相談があった時がありま
す。学校側とお母さんとの綿密なミーティングとかをもっともっと、お母さん
に対してケアをやって貰いたいです。お子さんに対してのケアも勿論の事なので

すけれども、お母さんの気持ちをもっともっと汲んであげると、もっとお子さんに対しても、もう少し楽になるのではないですか。

委員長・・・ ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

平野委員・・・ 発達障害の事から今中学校の話が出たが、以前からこの会議でも検討の内容というのが小学校までで終わっているのです。中学生とはもの凄く難しい時期で、しかも学校側はもう大人なのだからという事で突き放すという場合が多い様なのです。ですから中学生までを見守ってあげる必要があるのではないかと前から思っていて、そんな事で先日も市の方に子ども会館からもう少し視野を拡げて、青少年会館という物をもっと増やしていったらどうかというお話をさせていただきました。

それからもう一つ、ニーズ調査の中でも子育てで一番必要だと思われるのが、自由に安心して遊ばせられる場所だというふうに、非常に多くの方が仰っていて、こちらの後期行動計画の方にも「そういう場所を作りなさい」という様な上からのお達しがある様なのですが、今本当に子どもは忙しいのです。でも昨日うちの息子の友達が遊びに来て、お稽古ごとの30分の間ここで遊んでそれから行くのだと言うのです。そういう短い間ちょこっと遊びたい、今日は遊ぶ相手がいないからどうしようという様な、そういう事が起こってくるので、かといって一人で勝手に野山行って遊んで来いといってもそれはとても危険でできないという事になってしまっているのです。そんな事で、開いていけば困われた場所で自由な体験ができるような場所で、しかもそこにプレイリーダーという見守りの人を置いたような、そんな理想的な場所が各学区に一つぐらいあったら凄く良いという事を前から言って、一日冒険遊び場というのを開催してきたのですけれども、毎月一回ぐらいで100人以上の参加があります。それぐらい皆さんそういうものに飢えていらっしゃるという事もあるのかと思ひまして。ですからぜひ定量化と言うか数字で表すとなった場合に、そういう場所もぜひ数字で表していただきたい。市内何箇所ぐらいは「こうこう」と挙げていただいて支援していただいたら嬉しいと思ひます。段々子どもも大きくなってきて、私もパートをしながら月一ぐらいでそういう事をやるのもだいぶ疲れてきたので、ぜひぜひ早目に実現していただけたらというふうに思っています。

委員長・・・ お隣の横浜市では、週2回ぐらいで冒険遊び場をやっていると思ひます。子どもがドラム缶のお風呂に入って大喜びしています。

兵藤(嘉)委員・・・ 支援を必要とする子どもは年々増えているような気がする。特に1年生、2年生になりますと、担任がなかなか苦労しながらやっております。そしてまた、お母様が確かに悩まれている事が随分多いのです。その中で一人で悩まないで下さいという事で、担任を始め教育相談のコーディネーター、そして関係機関の方と

先生たちと交えながら色々お話を伺っているところなのですが、特に支援を必要とする児童が多いという事の中では、本校では学級支援員さんをお願いしています。しかし、時間数が限られていてなかなか申請しても上手くいかない部分もあるのです。そこは行政の力なのかと感じますので、その辺のところを御配慮お願いできたら嬉しいと思います。

委員長・・・ 神奈川県はスクールサポーター制度を導入していると思うのですが、鎌倉市は実績があるのですか。

兵藤(嘉)委員・・・ 今8校スクールアシスタントがきています。まだ全校には行っていません。力を入れてやっては下さっているのですが、もう一歩というところかと思います。

委員長・・・ なり手がいないですか。明治学院大学でも、県と協定を結んでいるが。他にはいかがでしょうか。

小坂委員・・・ 行政とかの公の場での色々な支援だとか、そういう部分については取り上げられているのですけれど、そういう育成支援とかの部分で企業側だとか、あとボランティアでそれぞれのところでやってらっしゃいます。そういう部分については、どの程度県の方では把握していらっしゃるのか。

私はたまたま広町で田んぼや、森の活動など色々しているのです。その中で今年はみどりの探偵団の事務局をしております。月1回なのですが、あの場で自然体験、そういうのを月1回している活動をしています。初めは30人くらいだったのですけれども、毎月のように口コミと言うのですか、今100名くらいになっているのです。それが幼児から小中学生を対象にしたかったのですが、幼児から小学校低学年の方が多いのです。100名のうちの四分の一くらいは藤沢の方から、自主保育の活動をしているグループか何かの口コミがあるのですが、やはり幼児を取り入れてくれるところは無いという事で結構みえます。そうするとお父さんお母さんは、皆若い方で、自分も自然体験をしてないという事で一緒に着いていらして、私はそれが凄く良い事だと思っているのです。

今活動しているメンバーは60～70代、そういう方たちが子どもたちと接して、そこでのコミュニケーションも取れますし、若い世代の方も逆に気分転換で月1回くらいだとか、毎月の田んぼの作業に30・40代の方がきてそういう活動をしているのです。そういうのが多分幾つかあると思うのですけれど、そういうことに対しては市からは多分支援が方入っていないと思いますが、もう少し目を向けていただいて何か支援というのをしていただくと凄くありがたい。今は何かありますと、お願いには行きますけれど、やはりそちらから直接どうこうという事はありませんので、自主保育の子どもたちの活動をしていますし、そういう部分に対しての支援というのも凄く良い事ではないかと思っていますので、そういう部分についての事をお伺いしたいと思います。

委員長・・・ 鎌倉市では情報誌を出されてはいるのですか。事務局の方。

事務局・・・ 「鎌倉子育てナビきらきら」という情報誌を作成しております。ここには色々な子育てグループ等の紹介をさせていただいております。先程委員さんが仰られた様な、個別の手助けみたいなものについては現実としては無いので、具体的にどのような事を望まれているかを具体的に要望していただいて、それが叶えられるものかどうなのかというところは考えさせていただければと思います。

富田委員・・・ 最近凄く気掛かりな事がございまして。保育園の保護者の母親にかなりの数の鬱状態の母親がおります。神経内科に行くとすぐ薬を処方される、でも薬の量が増えるばかり、そして薬が増えると朝目が覚めない、すると子どもを保育園に連れて来られない。家の中の整理整頓ができなくて、食事も作れない。子どもが親に色々要求するけれど親の反応が無いので暴れると怒鳴られる。だから、そういう母親の子どもは保育園がオアシスだと私は言っている。それで職員がその家に迎えに行って、来れば給食が食べられるし、子どもと一緒に気持ちを休ませる。そういう若い母親たちは、さっき尾島委員が仰ったように、自分に障害があるのでは無くて、子どもを産んでから子育てのストレスとか育児不安で鬱状態になるという人が相当多いので、その人たちを何とかして救済する手段は無いかと、薬を用いずに。だからカウンセラーの所に行って相談をしろと言っても、なかなか短時間では相談に乗り切れないという事もあるので、そういう人を引っ張り出すのは大変なのですけれど、市内に何箇所かたまり場を作ってそこにカウンセラーが常駐してお茶を飲みながらお喋りができる、同じ症状を持った人同士の慰めにもなるし、そこでゆっくり時間を作って相談に応じて貰える、そういう所をぜひ作って欲しいと思うのです。

委員長・・・ お話の中で逆にそういう家庭については、保育園の送迎のサービスがあってもいいかもしれないです。後、小坂委員がさっき仰っていた企業のというところでは、他の自治体ではワークライフバランスに関する優良企業を表彰するかという、後期計画でその様な提案も出ているのですが。

兵藤(忠)委員・・・ ぜひともそういったものを持ち帰りまして、検討してみようと思う。

委員長・・・ 他にいかがですか。

小坂委員・・・ たまたま神奈川県で子どもを育てていて、「かながわの子ども・子育て支援、企業で地域で」という表彰等活動紹介の冊子をいただいたのですが、それもあって今日は伺ってみたのですけれど、やはり励みになると思います。それから富田委員が言われた様な、会社に入られてから鬱になられた方がやはり自宅で療養され

ていたのですが、なかなか家の中ではという事で、広町散策パトロールを週2回やっていて、ただ黙々と歩いているだけなのですけれど、やはり森林浴と言うか気分転換になるようで材木座の方からみえていらっしゃいます。だから部屋でなくても自然の中でも充分気分を転換する場はあるかと思っておりますので、そういう情報はお知らせしてあげたいなと思っております。

委員長・・・ 他にいかがでしょう。

鈴木(綾)委員・・・ 私も今乳児がいます、このご時世不況に入って、主人も仕事で忙しく残業しないとともに収入が得られない。住宅も購入しているのでその支払いもありまして、やはり主人に頼れるところが限られてきて、やはり月末ぐらいに自分1人で全部やっていると溜まってくるものがあり、外に出られなくなるぐらいの時もでてきてしまうのです。それが鬱かどうかは私はお医者さんに行っていないから分からないのですけれども、できれば対象を区切らず色々な、赤ちゃんがいる方だけではなく、小さなお子様、保育園、幼稚園に行っている方でもいいですから、できれば毎回でなくてもいいのですけれども「大丈夫？」という電話を下さると、早期の場合は「大丈夫？」だけでもかなり救われるのです。第三者の方からでも「大丈夫、頑張っている」その一言だけでも「あ、大丈夫ですよ」とか、「こんな事があったの」という、そうやって深くないで済むと思う可能性があるのです、そういった配慮もあるといい気がします。

委員長・・・ 私は関連していつも思っているのは、高齢者の給食サービスというのがあります。子育て給食サービスがあってもいいと思っております。届けて、ちょっと「大丈夫」と世間話して帰ってくるような。どこかの自治体がやってくれないかと思っておりますので、これ先駆例が無いので生まれれば鎌倉市全国初めてのサービスというので有名になれるのではないかと思っております。今日は色々言っていたので事務局の方で参考にしていただきますので、他にいかがでしょうか。

赤瀬川委員・・・ 先程から話を聞いていてなのですが、私たち大人の元気が今無いという事で、一生懸命今後の事を考えるのですけれど、考えるだけで「じゃあ」というアクション、そこに至るまでに時間がかかるというのは、やはり大人の元気が無い現状かと。子どもの事を考えるなら、まずは大人が行動を起こして子どもを元気にしたという様な元気を貰える、元気が出るような場所でもいいですし、今言われていますけれども、PTAでも子育ても大事なのですけれど、親育て、その親業というふうに言われていまして、保護者の方がなかなかそういった問題を抱えてらっしゃる方が多いのだけれども、どこへ行ったらいいのか分からない。

また外に対しても不安もそうですけれど、やはり親同士のコミュニケーション、または学校とのコミュニケーションが足りないという事で、保護者、親を対象に私たちからまずは学ぼうという、子どもの事を考えるのは当然なのだけれども、

まず自分に気付き、自分が「よし」と元気になったから子どもと向き合えるようなという、そういう部分が今凄くPTAでもよく話されている事なので。

やはり学校は学校で抱えてらっしゃる問題、先生たちは本当に時間の無い中で子どもの事をやられながら、保護者からの相談も受ける、もうオーバーしている状態だと思うのです。幼稚園、保育園、小学校、中学校どこもそうだと思うのですけれども、そうしてしまうと先生方も余裕が無くなって、保護者は保護者で仕事を持っていらっしゃったりという事もそうですけれども、やはり社会全体が大人に余裕が無いのかと。

本当に何か変えたいという事であれば、例えばノー残業デー、というのを国が推進して、月曜日は無いという様に何か決まりを作る。例えば家族同士のコミュニケーションを大事にしなければいけないという事ならば、どこかの市がやっているのですけれども、ノーTVデーというの、町とか市全体でやっていく。もう月曜日だけはTVを見ないとかいうように、具体的に何か一つだけでもいいからやっていくという、まずはそこからなのかというふうに思いました。

委員長・・・ 親が元気なのは凄く大切だと思います。鎌倉女子大で親子体操、鎌倉市でやられていて、もの凄い人気があり、或いは地引網をやりましたが、あれももの凄い人が集まって、やはり来て面白いとか自然に触れる事ができる、体を子どもと一緒に動かせる、これはリフレッシュになるし元気が出るので人気があるのかと思うので、そういうのはイベントではなくて何か日常的にどこかの場所でやられている様なかたちになると、親も元気が出るかもしれないです。親だけの集まりがあっても良いと思います。

平野委員・・・ 今の事に関連してなのですけれども、私たちが今これに参加しているのは、ほとんど自主保育上がりのお母さんばかりで、やはり他の子の事も責任を持って見たりとか、他の子どもを叱り飛ばしたりとか、そういう事を経験してきて今現在に至っているのですけれども、やはり拝見していると今参加型のものに、ただ参加なさるといふ方が多いのですが、それを一緒に運営していこうという事になると、もっともっと皆さんとコミュニケーションが深まって、自分もいつも責任がある立場にあるという事で、心もリフレッシュされていく様な気がするのです。だから常に私たちはどういうふうに敷居を低くしていったらいいのかという事を考えながらも、なかなか上手くいかなかく仲間を増やす事ができないので、そういう事に関して良いご提案があったら伺っていきたくと思います。

委員長・・・ 参加型の活動という事だと思います。それも少し冒頭に申し上げました様にトライアングルの行動計画ですから、地域で何が出来るかという様なご提案があってもいいかという、そういうご発言だと思います。次回もまたこの話題を取り上げますので、また色々ご発言いただければいいかと思います。他に項目立てでこの様なものというものがありますか。よろしいでしょうか。

次第5 . その他

委員長 次第の5「その他」という事で事務局の方から何かありましたらどうぞ。

事務局 「その他」という事で議題にさせていただきます。皆様に事前に配布させていただきました今回の協議会の開催通知には、次世代育成支援対策交付金、通称ソフト交付金と申しますが、その対象事業事後評価についてを議題の予定としておりましたが、今年の5月15日付けで国から「次世代育成支援対策交付金を活用して実施した事業の評価、改善の推進についての廃止について」という通知がございまして、事後評価を行わない事になりました。

これは突然の事で私共でも驚いたのですけれども、19年度までについては事後評価を行い、その評価結果が次の年度の事業計画に適切に反映されている場合は交付金に一定の加算が行われておりました。しかしこの加算が廃止される事になりまして、その為に事後評価の方も廃止となったのではないかと考えられます。ただ事後評価が廃止になったからといって、私共事業の評価をしない訳にはいきませんので、今後もソフト交付金、国の交付金を活用して事業を進めるのですけれども、今回事後評価の部分につきましては、こういった経緯から議題からは除かせていただいております。以上でございます。

委員長 今日の次第は「その他」というところで全てが終わりになりまして、予定としては閉会をしていく事になるのですが。ここは最後に発言をしておきたい事が、言い残された事があればご発言いただきたいのですが、大丈夫でしょうか。ありがとうございます。それでは、次回はまた個別に日程調整していただくという事によろしいですね。それでは今日の第1回の協議会を閉じたいと思います。ありがとうございます。

事務局 長時間にわたりまして皆様ありがとうございました。これをもちまして平成21年度第1回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を閉会させていただきます。